

## 小規模事業場の産業保健サービスの向上を図る産業医マニュアルの作成

### 調査態勢

主任研究者	京都産業保健総合支援センター所長	横田 耕三
共同研究者	産業保健相談員(総括)	大山 孜郎
共同研究者	産業保健相談員	久下 寿夫
共同研究者	産業保健相談員	太田 美實
共同研究者	産業保健相談員	藤田 裕
共同研究者	産業保健相談員	上田 千里
共同研究者	産業保健相談員	小林 一之
共同研究者	産業保健相談員(まとめ)	志岐 初子
共同研究者	産業保健相談員(まとめ)	内藤 勝巳
共同研究者	産業保健相談員(まとめ)	平林 裕
共同研究者	京都下地域産業保健センター 運営協議会委員(委員長)	木村 繁男
共同研究者	京都上地域産業保健センター 運営協議会委員	安威 康夫
共同研究者	京都南地域産業保健センター 運営協議会委員	藤木 新治
共同研究者	丹後地域産業保健センター 運営協議会委員	山口 吉雄
共同研究者	中丹地域産業保健センター 運営協議会委員	吉川 泰朗
共同研究者	京都中部地域産業保健センター 運営協議会委員	藤岡 嗣朗

### 1.はじめに

京都では、平成5年度から平成9年度の間、府下全域7地域に地域産業保健センターが設置され活動を行っている。新設のセンターからはその経験や医師会の取組み実績や事業運営のノウハウを教えて欲しい。先発のセンターも問題点を抱えている。こうした点について交流して地域センターの目指すべき事業展開の内容について、小規模事業場の産業保健を向上発展させるマニュアルの作成が当推進センターの地域センター支援策の一つとして平成9年度調査研究のテーマとなった。

この調査研究は、4つの分科会にわけて、府下の地域センターの委員の参加協力のもとに行った。

### 2.調査研究結果の概要

(1) 第1分科会は、京都府下7地域保健センターの活動状況をアンケート調査し、この事業を受託している、各地区医師会の体制についてもアンケート調査した。

[表1]は、京都府下7地域保健センターの事業対象となる、労働者50人未満規模事業場の点在状況を示すものであり、その地域全産業の事業場に占める割合は極めて高い。

表1各地域産業保健センター事業所状況

	A	B	C	D	E	F	G
事業所総数	57,445	31,973	27,408	7,685	5,532	15,293	6,686
労働者総数	375,829	362,137	222,970	54,043	36,502	56,531	43,056
50人未満事業所数	56,668	31,037	26,908	7,545	5,465	15,228	6,686
50人未満労働者数	273,353	216,648	148,773	37,930	27,687	48,820	33,273
50人未満事業所率	98.6	97	98.1	98.1	98.7	99.5	98.5

各地域センターに登録した産業医の状況は、[表2]のとおりであり、都市部では多く、郡部地域で

はまだ少ない状況になっている。

表2各地域産業保健センター登録医等状況

	A	B	C	D	E	F	G
医師会数	8	5	4	2	1	2	3
医師会会員数	1,582	916	890	110	90	83	124
認定産業医数	202	119	103	25	20	12	18
研修中	19	19	11	8	4	0	2
登録医数	30	153	126	35	23	23	57

こうした体制による地域センター事業の状況を数値的に調査した結果を[表3]とした。

表3各地域産業保健センター事業状況

地区記号	運営協議会		健康相談窓口	個別訪問指導	説明会		パンフレット等発行	
	委員数	回数			8年度	9年度	種類	部数
A	13	2	17	24	2	2	2	1,500
B	15	2	7	52	5	7	3	10,000
C	14	12	8	22	8	4	4	6,000
D	10	3	13	26	3	4	2	300
E	12	3	24	26	3	2	7	74
F	10	4	32	12	0	5	2	1,300
G	12	4	16	22	0	4	3	1,100

地域センター活動についての、アンケートに記述された意見では、各地域に数多い小規模零細事業場に、地域センター事業をPR することの難しさ、登録事業場・利用者の開拓が非常に難しいこと、現在の同額委託費による事業展開では、都市部では登録医師が多いのに出務割当が限定され活動の期待にそえず、またセンターによっては出務医師が少なく、特定の医師へ偏り問題点になっている。

また、窓口健康相談を多く設定し、相談者も少なく出務医師に虚しい失望を与えている。先発のセンターは個別訪問指導に力点を移す事業展開を行っているが、予算等の関係で登録事業場への訪問指導が隔年又は、3年毎になり、登録事業場の産業保健サービス向上を図る妨げになっている。

こうした欠点を補う努力として、地域センターニュースを発行するなどの活動もみられる。各地区医師会の地域センター事業への関わりにも、当該医師会の認定産業医数や、産業医部会の活動状況個別訪問指導事業場の登録数と訪問指導実績等によりその関心と取り組みに差が生じている。(2)第2分科会は、各地域センターの運営協議会委員の医師、コーディネーターと当推進センターの相談員が地域産業保健センター事業の中心的事業である、個別訪問産業保健指導の産業医マニュアルの作成を行った。

地域産業保健センターが当面最重点事業として進める個別訪問指導には、日頃多忙な地区医師会の開業医で地域センターに登録した産業医と産業医を目指す研修中の医師の出務を要請しているのも、その際の実務手引きと、最も実践的研修資料として活用できるよう取りまとめた。

例えば、労働安全衛生規則第51条による様式第5号の「医師の意見欄」の記入について、下図を示してその実務について注意を喚起した。

医師の診断	異常なし	肝機能異常
健康診断を実施した医師の氏名印	健診太郎○	健診太郎○
医師の意見		再検査
意見を述べた医師の氏名印		地域千太○
	(前年)	(本年)

「産業保健活動記録票」と「健康相談保健指導記録票」を改良し、モデル様式を作成した。

(3)第3分科会は個別訪問産業保健指導事業場の職場巡視による作業環境管理、作業管理のチェックリスト、指導マニュアルを作成する委員会とし小規模事業場を対象とした、粉じん、有機溶剤鉛取扱い作業、VDT作業、腰痛対策、5S運動などにしぼって、チェックリストと、作業環境管理基準と作業環境管理に関する参考図表を簡潔に選定して、指導マニュアルとして作成した。その一部を例示した。

作業環境は快適ですか？照度、温度、湿度、気流、については事務所衛生基準規則(7項)又はJIS(資料1頁)を参考にして下さい。

#### 騒音

音はうるさくないですか？会話が出来ない作業場は80dB(A)以上です。

騒音をださないように、発生源をチェックしてください。

#### 腰痛予防

業務上の疾病には、腰痛が多く発生しております。少しの作業方法の改善で腰痛は防げます。特に重量物や作業姿勢についてチェックして下さい。

#### 振動作業

チェーンソー以外の振動工具も見られます。主に作業管理についてチェックして下さい。

#### (4)第4分科会の調査研究

第4分科会では、地域産業保健センター事業で行う窓口健康相談を利用する労働者や、個別訪問産業保健指導事業場の労働者の健康相談を効果的に、効率的に実施する健康教育・保健指導教材として「働く人の健康手帳」を作成した。

### 3.結語

京都府下全域の小規模事業場とそこで働く数多くの労働者の健康の保持増進の委託事業が効果的に、意義深く、産業医はじめ関係者により向上発展される一助に、このマニュアルが活用されることを期待している。